



# 第59回男子・第53回女子プロボウラー資格取得テスト

男子

6名・女子

5名が

# プロライセンスを取得



▲男子合格者。前列左から安里、坂本、伊吹、後列左から土方、田中、鮫島の6名



▲女子合格者。左から中島、堀井、原野、清水、幸木の5名

2年ぶりに開催されたJPBAのプロテスト(第59回男子・第53回女子)は、第1次・2次の実技、第3次の面接・筆記試験を経て男子6名・女子5名の計11名が合格。5月28日にライセンスが交付された。

## 東京→神奈川に会場変更も

第2次実技テストは、1次(前号既報)を突破した36名の受験生(男子22・女子14)に1次免除者8名(男子6・女子2)が加わり、5月10～11日、24～25日に実施された。日程は当初の予定通りだったが、緊急事態宣言の延長に伴う東京都独自のボウリング場への休業要請により、後半の会場は北区王子のサンスクエアボウルから神奈川・川崎グランドボウルに変更となった(5月11日に決定)。

その2次テストは総じてタフなコンディションで、1次とは一変して大きくスコアを崩す受験者が続出。大阪・牧野松園ボウルでの前半2日間終了時点で合格ラインをクリアしていたのは、男子が7名、女子は4名のみ。最終的に、男子はそこから1名が脱落し、女子は逆に1名が巻き返して合格を勝ち取った。

## 男子合格者

トップ合格の安里秀策(あさと・しゅうさく)は現JBCナショナルチームの中心メンバー。今年度から同団体の競技者規程が改定されたことにより、JBCに在籍したままプロ活動に入る初の選手として今後の動向が注目される。

2次テスト2日目までトップを走っていた坂本かや(49期)の実弟・坂本就馬(さかもと・しゅうま)は、川崎に会場が移ってから安里に逆転を許し、終わってみれば大差をつけられて

の2位フィニッシュに悔しさを隠さなかった。

姉同様「高校生でプロになる」ことを目標に、昨年の時点でJBCは退会。コロナ禍でプロテストが中止となり、その夢は叶わなかったが、代わって「現役大学生プロ」としての活躍に期待がかかる。

「姉には毎日LINEで励まされていました。プロとしての目標は、ジュニア教室で指導を受けて、今はドリルをもらっている永野すばるプロ(40期)。公式戦で勝って「恩返し」がしたいです(笑)」



▲3次テスト最終日、理事会の席上でライセンス交付式が執り行われた(5月28日、東京ポートボウル)

以下、伊吹太陽(いぶき・あつし)、土方捷(ひじかた・はやと)、田中棕也(たなか・りょうや)、鮫島蓮(さめしま・れん)の4名はいずれも全日本ナショナル&ユースナショナルチーム出身者。大舞台の経験豊富で、プロでも即上位争いできる実力の持ち主ぞろいだけに、男子の公式戦も活性化必至だ。

## 女子合格者

女子は合格者5名中3名を柴田英徳(11期)門下で10代の福岡県勢が占めた。

トップ合格の中島瑞葵(なかしま・みずき)は、2019宮崎プロアマオープンベストアマ

(総合3位タイ)。JBCでは全国大会の優勝こそないが、今年1月の全日本高校選手権で3位入賞を果たした余勢を駆ってプロテストに臨み、唯一200アベを突破。パワフルなボウリングで、順位戦免除で挑む年内の公式戦でもいきなり上位陣を脅かす存在となりそうだ。

3位合格の原野萌花(はらの・もえか)は19年の全日本高校選手権覇者。5位合格の幸木百合菜(こうき・ゆりな)とともに名門・福岡第一高の出身で、卒業後、1年を準備期間として今期のプロテストに臨んだ。高

女子優勝者。幼児教育専門の大学を今春卒業し、「保育士かプロボウラーか」で悩んだ末に後者を選択した。ハイアングルのバックスイングが特長のサウスポーが目指すのはもちろん「左のトップ」だ。

「出戻り受験生」の清水弘子はラスト2日間の川崎で苦戦し、4位まで順位を下げたが、「一発で合格することが目標

だったので」と安堵の表情を浮かべた。JPBA14勝の実績はいっさい考慮されず、次は順位戦という試練が待ち受ける。

「(出戻って) やると決めたからには前向きに進んでいくつもり。順位戦で上位にいければ、7月の六甲クイーンズが最初の公式戦。初優勝が六甲だったので、出られるように頑張ってきます」

## 第2次実技テスト合格者最終成績

### ●男子(60G)

順位	氏名	登録地	利腕	スコア	AVG
1	安里 秀策	和歌山	右	12,648	210.80
2	坂本 就馬	神奈川	右	12,252	204.20
3	伊吹 太陽	滋賀	右	12,230	203.83
4	土方 捷	神奈川	右	12,170	202.83
5	田中 棕也	石川	右	12,058	200.96
6	鮫島 蓮	愛知	右	12,038	200.63

### ●女子(48G)

1	中島 瑞葵	福岡	右	9,911	206.47
2	堀井 春花	滋賀	左	9,454	196.95
3	原野 萌花	福岡	右	9,423	196.31
4	清水 弘子	千葉	左	9,319	194.14
5	幸木百合菜	東京	左	9,233	192.35



▲男子トップ合格の安里。「プロとして活躍してみたいというのが、今回受験した一番の理由です。ルールが変わってナショナルチームでも活動できるようになったので、今後はうまく両立してやっていきたいと思っています。和歌山県連の西田会長には『プロになっても国体にだけは出る』と言われていました(笑)」



▲女子トップ合格の中島。「小学校時代からずっとプロを目指していたのですが、やっぱり(同じ柴田英徳門下の)松永プロの影響が大きいかなと思います。先のことはまだ何も考えていませんが、自分とそんなに年が離れていない坂本(かや)プロが活躍されているのはすごいと思うし、自分もそうなりたいですね」